

新型インフルエンザのワクチンは無料に

新型インフルエンザ対策

ワクチン接種に市が助成を

田中議員は九月議会の代表質問で、新型インフルエンザについて質問し、予防ワクチン(二回で六一五〇円)を公費で助成するよう求めました。市長は「国の方針を踏まえ早急に市の考え方を整理していきたい」と答弁しました。

現在、季節性インフルエンザワクチンは、十三歳未満の子どもと六十五歳以上に市が補助しています。

新型インフルエンザワクチンは、優先接種対象者(医療従事者、妊婦及び基礎疾患のある方、乳幼児と小・中・高校生、高齢者など)に接種し、生活保護世帯等は軽減するとしていますが、接種者全員に助成することが求められています。



休日夜間診療所の拡充を

水戸市保健センター内にある休日夜間診療所の医師や看護師を増やし、新型インフルエンザの受診体制を拡充するよう求めました。加藤市長は「万全な体制で臨みたい」と答弁しました。

命を守る保険証 国保加入者全員に交付を 日本共産党水戸市議団が市に申し入れ



十月一日、国保税未納を理由にした保険証取り上げをやめ、加入者全員に郵送交付するよう加藤市長に申し入れ、橋本副市長と清水保健福祉部長が受け取りました。

下水道受益者負担金が高すぎる…

田中議員は、下水道受益者負担金の値下げを要求。現在工事中の水戸第三負担区(元吉田、酒門、堀渡里など)は一平方メートルあたり三二〇円で、「くらしが大変なのに高すぎる」という声が多く出されています。

田中議員は「上市地区と比べ七倍も高く値下げすべき」と主張。加藤市長は「すでに徴収を開始している」と答弁し、値下げする考えはないとしました。

**受益者負担金は
工事時期で
7倍の差!**
(1㎡あたりの料金)

●水戸第3負担区 (元吉田、酒門、堀、渡里など)	320円	7倍
○上市地区	44円	
○城東地区	141円	
○浜田・駅南	210円	

下水道接続補助制度の復活を

また田中議員は、水戸市が二〇〇七年七月に廃止した下水道接続補助制度の復活を要求しました。

各家庭の合併浄化槽などから公共下水道につながる場合に補助するもので、県内二十九の市町村が実施、土浦市は一件四万円補助しています。公共下水道につながる工事は三〇万円から五〇万円かかります。

費用弁償は 廃止すべき

「報酬二重払い」との
批判はまぬがれません

共産党市議団は、議員が本会議などに出席した際に支給される費用弁償(月額五千七百円など)を廃止する条例案を九月議会に提出。また他の議員から、費用弁償を減額する案と、当分の間支給を停止する案が出され、採決の結果、来年四月から当分の間の支給停止が決まりました。

支給停止は費用弁償の制度を残すものであり、共産党はあくまで廃止すべきと主張。党市議団の田中、中庭、江尻議員の三名は、今年四月から受け取りを拒否しています。

体育施設の利用料20%値上げ 市民負担増は年間2千万円



水戸市総合運動公園のテニスコート(見川町)

九月議会に市立体育施設利用料を来年四月から一律二〇%値上げする条例が出され、共産党は市民負担が増えるとして反対し、他のすべての議員が賛成して可決しました。

公民館を廃止し 市民センターに一本化

公民館(内原を除く)を廃止し、市民センターに一本化する条例が提出され、共産党は生涯学習の後退を招くものとして反対。他のすべての議員が賛成し可決。

田中議員は代表質問で、公民館の予算は年々削減されており、生涯学習や地域コミュニティの充実のために、予算や職員を増やし、施設の増改築を求めました。

茨城交通バス・下江戸線が当面継続



九月末に廃止予定の茨城交通バス・下江戸線(上河内・国田方面、水戸駅)が、十月以降も当面継続されることになる。

柳河地区自治住民の会とPTAが存続を求める二千二百名の署名を茨城交通(株)に提出し、国田地区自治実践会も要望書を同社に提出していました。中庭議員も今年六月議会で存続を強く主張しました。



田中まさき ☎(247) 3714
江尻 かな ☎(243) 6888
中庭 次男 ☎(251) 3254

**日本共産党水戸
市議団ニュース**